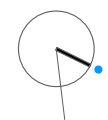
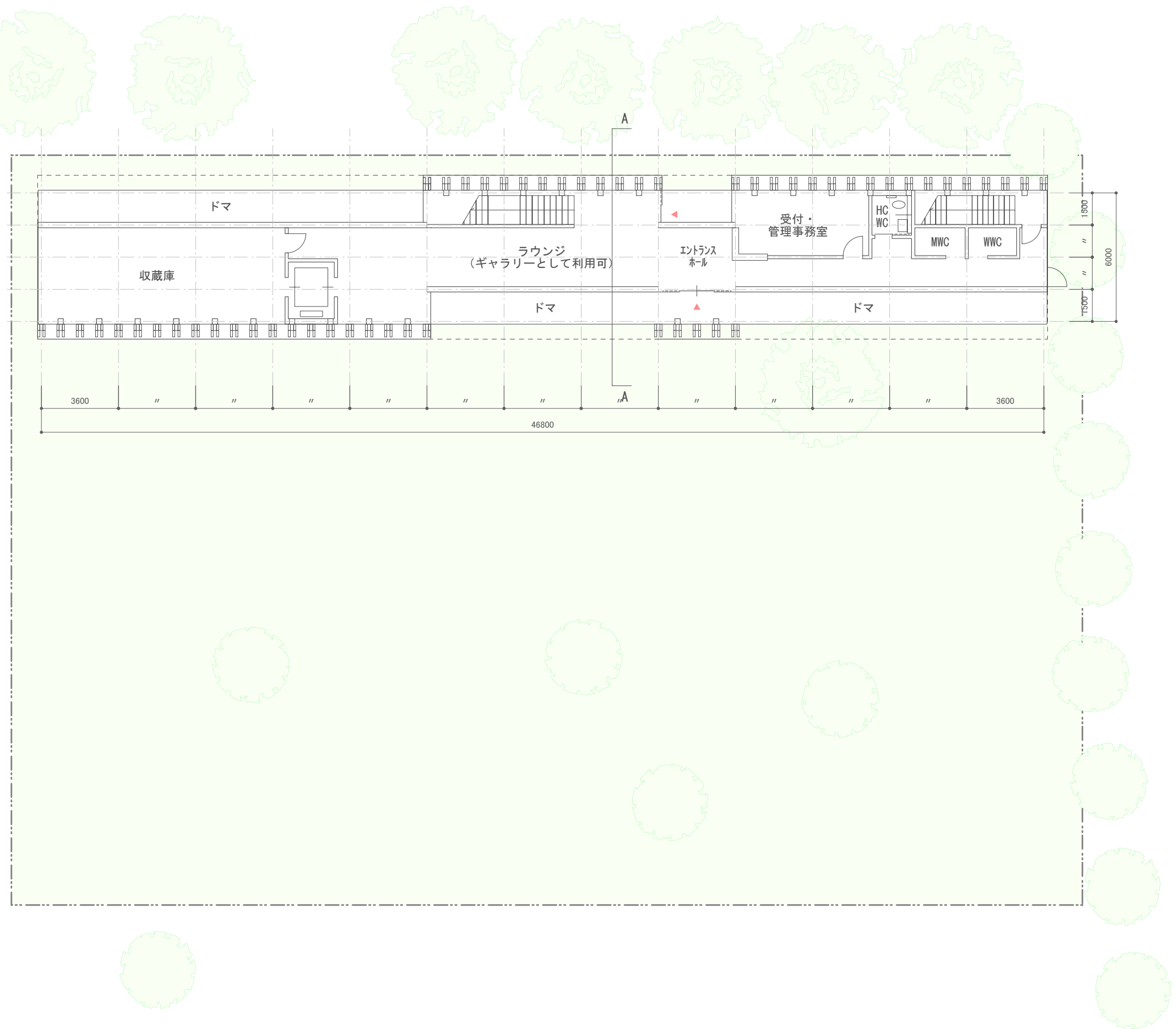
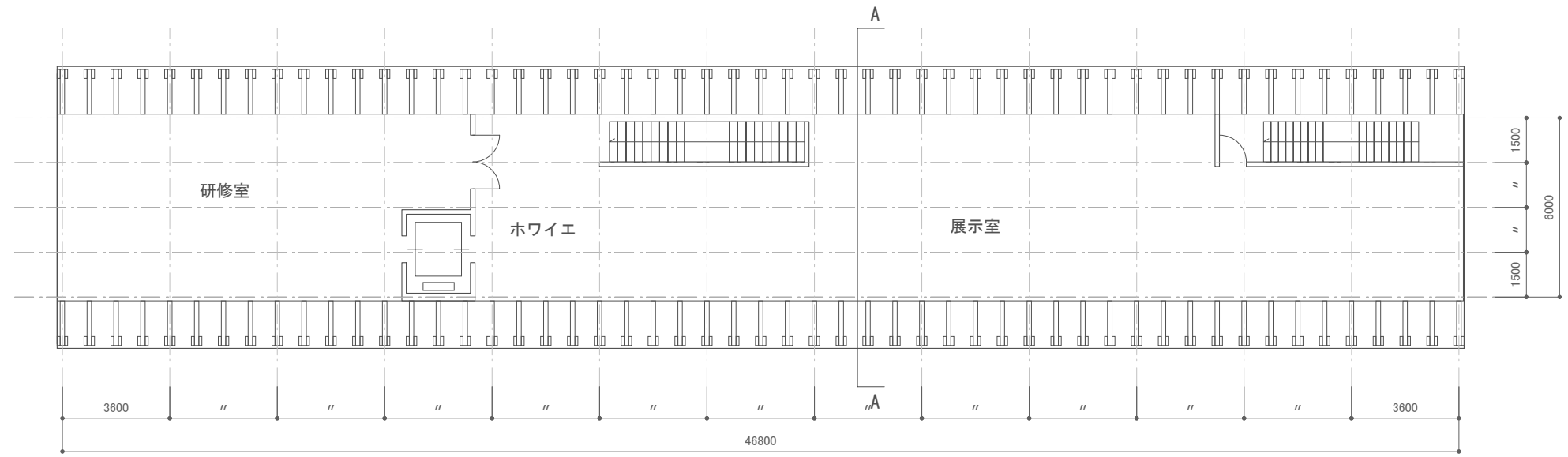
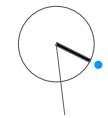


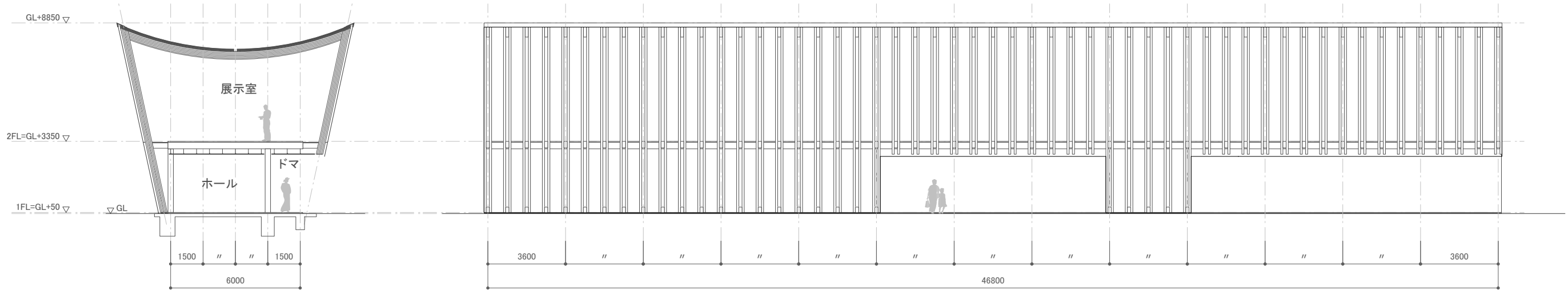


大倉喜八郎
記念館





2階平面図



A断面図

東立面図

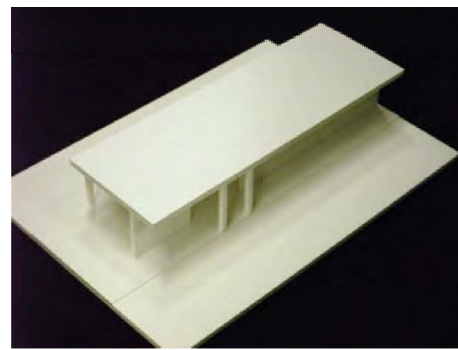
concept01-“universal”

本計画では、2Fレベルが特徴的なフラットな床として現前する。
 このフロアは、1Fの諸室や垂直動線によって機能を補完されることで、
 今回要望されたフォトギャラリーのみならず、様々な用途に適用可能であるという、
 “universal”=普遍的な性質を持っている。
 ここでは、このフロアが様々な活動の基盤になるという意味で、「プラットフォーム」と呼ぶこととする。

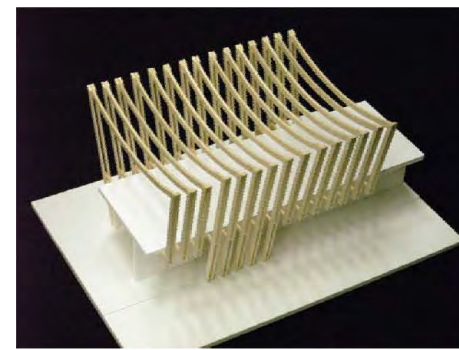
■建設プロセス



プレキャスト・コンクリート製
プラットフォーム・ピース
(水平投影3.6m×6m)



基礎上に、左記ピースを必要に応じて
180度回転させながら水平展開することにより、
プラットフォームを構築。

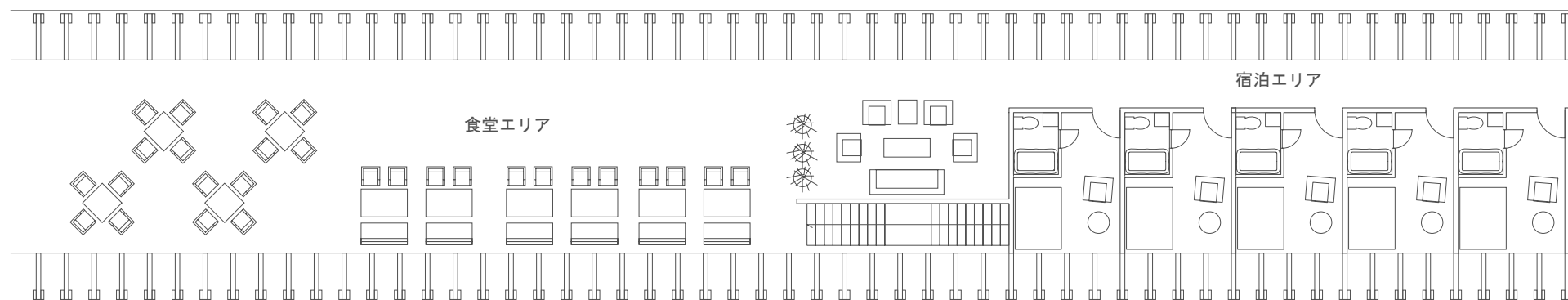


集成木材の門型ピースにより、
プラットフォーム及び1Fに外骨格を設置。
(柱材:100×300ダブル&梁材:150×350)



内外装仕上、雑工事等

■プランニング例



concept02-“eternal”

「プラットフォーム」システムは、軸線方向への増築が非常に容易なシステムである。
従って今回、このシステムを用いて今後必要となるであろう機能を補い、
また現状においては敷地内にばらばらに散在している機能も集約させ、
“eternal”=恒久的に変化・成長を続けるマスタープランを提案する。
これにより、いつかは敷地境界をも越えて統一感のある景観が形成されることが期待できる。



マスタープラン概念図 1/2000

concept03-“neutral”

敷地は大井川と烏森山に挟まれたエリアであり、本計画では建築内部からそれら双方の良好な景観を享受できるように配置計画がなされている。また本計画のような長大な建築を計画する場合、景観の阻害や威圧感が問題になるが、外壁面のオーバーハングにより視線を内へ引き込みながらも逆アーチ曲面を描く天井によってその視線を反対側へ抜き、また雨宿り・木陰空間である「ドマ」の存在が建築を親しみやすいものになっている。以上のように本計画は対置された状況に対して“neutral”＝中間的なスタンスを貫くことで、敷地の持つポテンシャルを最大限引き出すことが期待される。

